

「甲子園から全国へ・・・2014 春」

第 86 回選抜高等学校野球大会を終えて

昨年、全国大会・地区大会で発覚したラフプレイを反省に決意新たに臨んだ今大会。出場校のフェアプレイを貫く真摯な姿勢のお蔭でラフプレイ撲滅の起点となるべく、意義あるシーズン始めの大会となりました。平均試合時間は 1 時間 57 分（9 回換算・延長試合は 7 試合）大会を通じて特徴的な課題を振り返ってみましょう。

① 大会中に長年高校野球を愛する人から一通の投書が連盟に届きました。

ご指摘は「試合前両校が勢揃い、対面で「礼」をする長い間高校野球の美しい慣習でした。昨今同時挨拶ではなく相手チームが頭を下げ上げた後それから礼をする学校が増えて参りました。・・・中略・・・スポーツ精神、立ち振る舞いを教えられず成長し社会人に出る生徒は不幸だと思います。」

ご指摘の内容については以前から日本高野連でも察しており、第 81 回選抜野球大会前の出場チーム主将研修会にて整列時の「礼」の仕方をレクチャーした経緯があります。

「礼」の語源を辞典で検証してみますと。

- イ) 社会秩序を保ち人間関係を円滑に維持するために守るべき社会生活上の規範
- ロ) 敬意を表すために頭を下げること（立礼）
- ハ) 感謝の意の表明

アマチュア野球では「礼」に始まり「礼」に終わることが「野球道」として定義付けられ現在もその精神が受け継がれている。この機に今一度その伝統を全国加盟校に周知徹底していただき、「礼の仕方」の本質を互いに伝達していきましょう。

② 外野飛球（ライナー）のトラブルボールに伝令（規則 9.02 (a)）

一死 2 塁、右翼手前に低いライナー性の当たり。1BU が最適な位置で「ザッツ・ア・キャッチ」を宣告。飛び出した 2 塁走者が帰塁できず右翼手からの二塁返球でスリーアウト。三塁側ベンチの攻撃チームから裁定に対する伝令が出る。試合後当該の監督に厳重注意を促しましたが、常日頃から審判委員に不信感を抱いている潜在意識が形となって表されたものではなかったでしょうか。

自信をもった判定を大きなジェスチャーで表していく姿勢を貫いていきましょう。

その他、伝令を出した後の監督からの「アンサーサイン」の欠如、次打者席での投球時の素振り等。未だ未だチーム側に指導が行き届いていない項目も実戦では見受けられますが、私達審判委員は毅然とした態度で試合に臨み、加盟校への理解と協力を惜しまない指導者であっていただきたい。

以上